

宮崎県

高鍋町

若者がSDGs思考で、
未来の事業創出に
つなげる商業のまち人口 19,275人 面積 43.80 km²

都市の特徴

宮崎県中部の沿岸部に位置し、太平洋に面する。地元農産物を活かした焼酎や、“餃子のまち”としても有名である。また、藩校「明倫堂」からは、多くの起業家や政治家を輩出し、歴史と文教の町でもある。

高鍋町

TAKANABE TOWN

歴史に学んだ
新たなまちづくり

当町は、江戸時代に設立され先進的な教育方針をとった藩校「明倫堂」を歴史資産として有する。また現代の社会起業家に通じる社会性ある事業を成し遂げた人材を多く輩出するなど過去の蓄積を確かな財産としている。こうした歴史に学び新産業の創出や起業家の輩出を目指すべく、若者の力を強みにしていく。

01 起業家教育プログラム

当町の交流拠点や蚊口浜を舞台に、地域課題の探究から企画、事業計画、資金調達、販売、決算までをリアルな資金で実践。中高生が起業家精神を学び、稼ぐ体験を通じて将来、地域課題を解決し町を持続可能にする人材を育成する。

第1弾では、中学生向け起業家ワークショップを開催。生徒は社会課題解決につながる革新的アイデア創出に挑戦し、農業・防災など9テーマから関心あるジャンルを選び、約100個のアイデアを企画・提案し、充実した内容となった。

高鍋西中学校の生徒
起業家精神を学ぶ



02 リーダーシップ研修

菊谷崇氏が伝える
ラグビー精神



ラグビーを通じて
学びを得る子どもたち



高鍋高校ラグビー部は宮崎県内の強豪校であることから、町ではラグビーが根付いている。そこで、ラグビーワールドカップ2011年の日本代表元主将である菊谷崇氏が副業型地域活性化起業家として参加し、地域の若者たちをラグビー精神で育成していく。

町と若者の“ONE TEAM”を形成する環境デザインを構築するために、リーダーシップ研修等を受講した高校生が主体となって小中学生との信頼関係創出に努める。こうした若者を次世代の担い手へと育てていく取組を地域のスタンダードにすることを目指す。

石像群が特徴的な
高鍋大師



名産の
高鍋餃子

各取組の
詳細はこちら

取組01-02



インタビュー

Interview

01

SDGsの取組による人材育成

高鍋町教育総務課 課長補佐 寺原 一哲 さん



(左) 株式会社 Bring Up Athletic Society 菊谷 崇 さん

(右) 高鍋町 教育総務課 寺原 一哲 さん

昨年度、菊谷崇さんによる「道徳とスポーツの横断的授業」を試行しました。今年度は発展として、菊谷さんを副業型地域活性化起業家に委嘱し、スポーツを通じた人材育成に取り組んでいます。町のSDGsの一環として、子どもたちにスポーツを通じ自発的に考え、助け合い学ぶ力を身につけてほしいと考えています。町の未来を担う人材育成に力を入れていきます。

02

スポーツ×教育×地域社会の実現へ

株式会社 Bring Up Athletic Society 代表取締役 菊谷 崇 さん

当団体はスポーツを通じて「教育」「社会連携」「地域貢献」を推進しており、地域課題の解決を目指した住民参加型のイベントを実施しています。

当初はスポーツの教育的価値が理解されず苦勞することもありましたが、プログラム設計段階から教育的効果を明文化することで教育関係者や自治体の方々の理解を得られるようになりました。

高鍋町でも、学校や地域クラブでの教育だけでなく地域企業の人材育成やCSR活動とも連動して、教育と社会貢献の実現を目指します。

スポーツを楽しむ
子どもたち



今後の展望

歴史と文教の城下町である高鍋町の強みを生かし、先人の起業家精神・生き方に地域の若者が学び、SDGs基点で物事を考え、多くの起業家が育成されるまちに転換していく。産官学金一体となって目指す新産業の創出や生物多様性・ネイチャーポジティブの実現といった環境問題への取組、町のリーダー育成に若者の力を活用する。

そのほかの
取組

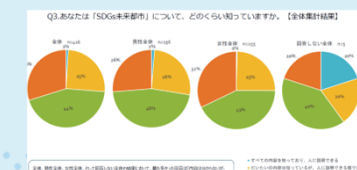
SDGs入門研修会の開催

SDGsと地方創生の関わりや政策連携する価値を体系的に学ぶことを目的に、職員研修を開催し、横串で政策を考える重要性を学んだ。



SDGsの認知度と取り組みに関するアンケート調査の実施

町民のSDGsに対する認知度や、「SDGs未来都市」の選定に対する理解を把握するため、調査を実施し、その結果を公表している。



SDGs未来都市選定に係る懸垂幕及び横断幕等の掲示

「SDGs未来都市」選定に係る懸垂幕および横断幕等を作成し、役場庁舎および駅に設置することで、町民や来訪者へ周知を行う。

